

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成29年10月12日 (2017.10.12)

【公開番号】特開2016-53394(P2016-53394A)

【公開日】平成28年4月14日 (2016.4.14)

【年通号数】公開・登録公報2016-023

【出願番号】特願2014-179479(P2014-179479)

【国際特許分類】

F 1 6 K 31/06 (2006.01)

A 6 1 B 5/0225 (2006.01)

G 0 5 D 7/06 (2006.01)

A 6 1 B 5/022 (2006.01)

【F I】

F 1 6 K 31/06 3 1 0 D

A 6 1 B 5/02 3 3 6 H

G 0 5 D 7/06 Z

A 6 1 B 5/02 3 3 6 C

【手続補正書】

【提出日】平成29年8月25日 (2017.8.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 8】

この電磁弁 2 3 3 は、コの字状のヨーク 2 7 3 と、このヨーク 2 7 3 の中央の壁 2 7 3 a に固定された略円筒状のコア 2 7 4 と、付勢部としてのコイルスプリング 2 7 5 と、略丸棒状のプランジャ（可動鉄心） 2 7 6 と、ヨーク 2 7 3 に収容された非磁性のプラスチック材料からなるボビン 2 8 0 と、ヨーク 2 7 3 の開放端を塞ぐための略矩形板状のヨーク蓋 2 9 0 とを備えている。ヨーク 2 7 3、コア 2 7 4、プランジャ 2 7 6、ヨーク蓋 2 9 0 は、作動時に磁気回路を構成するように、磁性材料からなっている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 0】

コア 2 7 4 は、ヨーク 2 7 3 の中央の壁 2 7 3 a を貫通して、ボビン 2 8 0 の円筒状部分 2 8 1 の途中まで延在している。コア 2 7 4 の内部には、軸方向に、外端 2 7 0 e から内端 2 7 0 f へ向かって流体を流通させるための流通孔 2 7 0 が貫通して形成されている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 3】

このように、上流側の圧力 P が 3 0 0 mmHg、1 5 0 mmHg に設定されている場合

において、周囲温度 T が変化したとき、流始点電圧 V_s と限界電圧 V_f とは、正の相関関係 RL_{300} 、 RL_{150} を示す。したがって、電磁弁 233 の流始点電圧 V_s が分かれば、周囲温度 T にかかわらず、これらの相関関係を用いて、電磁弁 233 の限界電圧 V_f を換算して求めることができる。例えば上流側の圧力 P が 300 mmHg の場合、図 8 中に破線 A1 で示すように電磁弁 233 の流始点電圧 V_s が 3.10 V であれば、図 8 中に破線 A2 で示すように電磁弁 233 の限界電圧 V_f は約 1.10 V であると求めることができる。この場合、電磁弁 233 のための駆動電圧 V を設定すべき範囲（有効設定範囲）は、約 1.10 V ~ 3.10 V となる。なお、図 8 中には、線分 RL_{300} において $V_s = 3.10$ V、 $V_f = 1.10$ V に対応した点を、符号 D1 で表している。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0059

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0059】

相関関係記憶部 251 は、制御すべき電磁弁 233 と実質的に同じ特性をもつサンプル電磁弁の駆動電圧について、サンプル電磁弁を通して流体が流れ始める流始点電圧 V_s とサンプル電磁弁が全開となる限界電圧 V_f との間の相関関係を記憶している。この例では、図 8、図 9 中に示した相関関係を表す線分 RL_{300} 、 RL_{150} の式を記憶している。この例では、相関関係記憶部 251 は、EEPROM (Electrically Programmable Read Only Memory) からなるが、それに代えて、RAM (Random Access Memory)、メモリカード、または SSD (Solid State Drive) などからなっているもよい。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0090

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0090】

図 13 は、この発明の一実施形態の電子血圧計（全体を符号 1 で示す。）の外観を示している。この電子血圧計 1 は、被測定者の上腕に装着されるカフ 20 と、本体 10 と、これらのカフ 20 と本体 10 とを接続するフレキシブルなチューブ 38 とを備えている。カフ 20 には上腕を圧迫するための流体袋 22 が内包されている。本体 10 には、表示器 50 と、操作部 52 とが設けられている。操作部 52 は、この例では、電源スイッチ 52A と、メモリスイッチ 52B と、進む／戻るスイッチ 52C、52D とを含んでいる。

【手続補正 6】

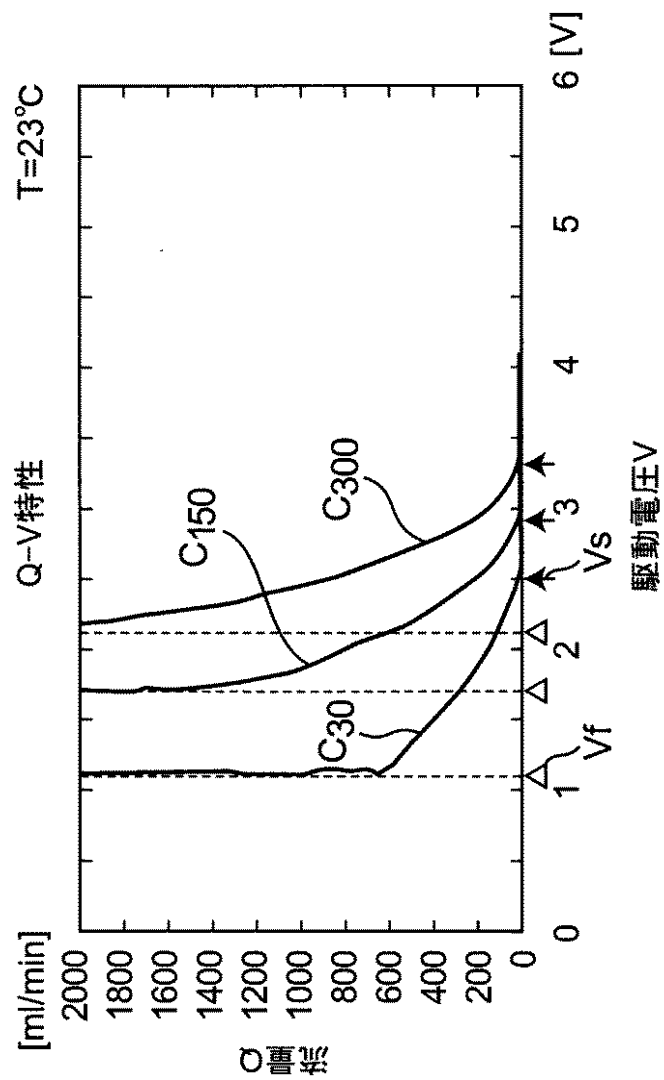
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 5】



【手続補正 7】

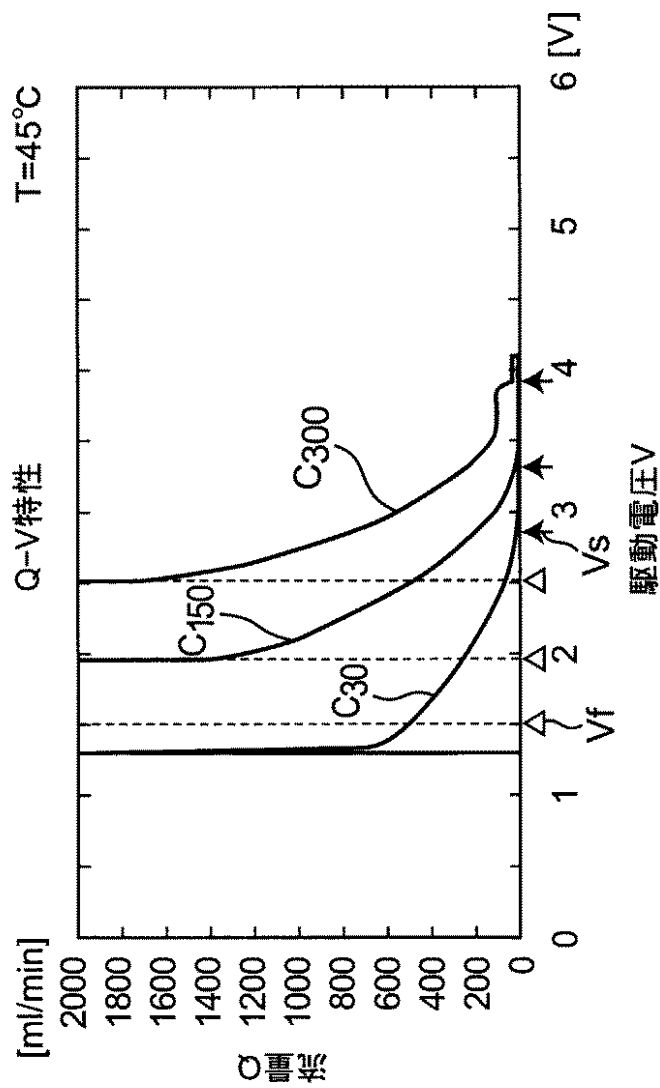
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 6

【補正方法】変更

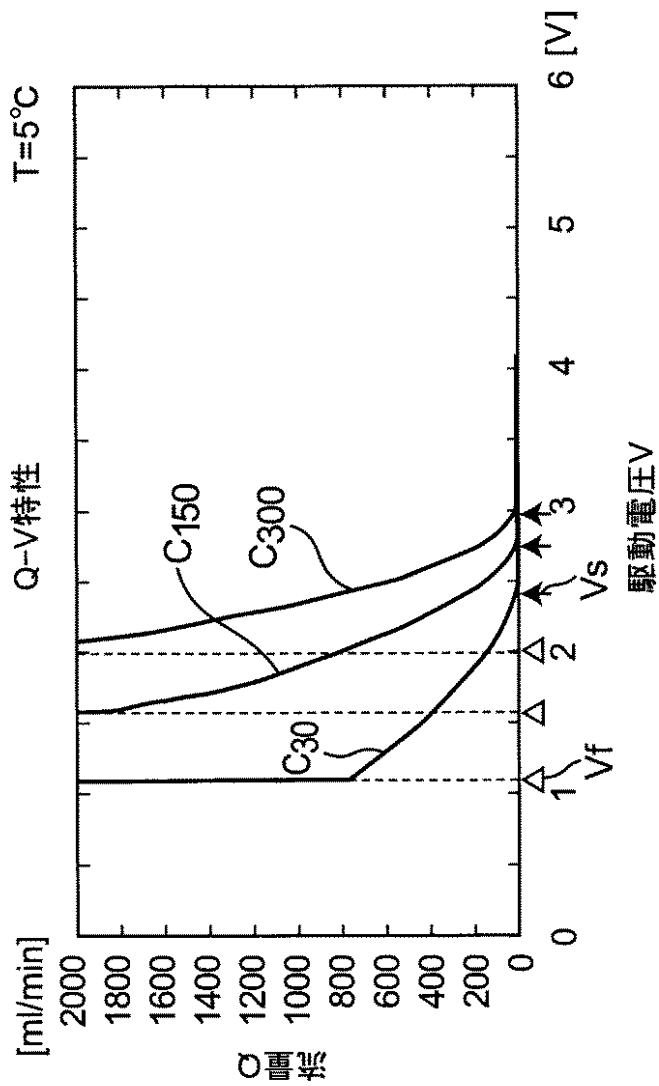
【補正の内容】

【図 6】



【手続補正 8】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図 7
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図 7】



【手続補正 9】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図 1 0
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図 10】

